

主会場選定にあたっての比較評価調書(素案)

【資料5】

項目	視点	彦根総合運動場	希望が丘文化公園	びわこ文化公園都市	(これまでの専門委員会での意見等)
1. 施設整備にあたっての課題					
法令上の課題	<p>用途地域不適合 近隣商業地域に変更(彦根市)</p> <p>高さ規制(彦根城風致地区・城下町景観形成地域) 市景観審議会の承認を受けることで対応(彦根市)</p> <p>運動施設面積率/許容建築面積率超過 民有地買収等による敷地面積の拡大、金亀公園の区域 拡大による対応(彦根市の協力)</p>	<p>保安林(土砂流出防備保安林)の解除(約2ha) 森林法に基づく手続きが必要</p> <p>埋蔵文化財の調査 踏査の結果、調査の必要なしと判断(県文化財保護課)</p>	<p>用途地域不適合 商業地域等に変更(大津市)</p> <p>保安林(土砂流出防備保安林)の解除(約12ha) 森林法に基づく手続きが必要</p> <p>環境アセスメントの実施 県条例に基づく手続きが必要</p> <p>埋蔵文化財の調査 踏査の結果、「人工的な平坦面」が確認されたため試掘 を行い、調査の要非の判断を行う(県文化財保護課)</p>		
整備上の課題	<p>彦根球場は彦根市、関係競技団体とも現状維持の要望が 強い 敷地拡張を条件に現状維持</p> <p>通常使用時の場内駐車スペース確保 民有地買収等による敷地面積の拡大によるスペース確保が 必要(彦根市の協力)</p>	<p>高低差への対応方法、法面工事の要否については、公園 整備構想、基本計画策定過程で慎重な検討が必要</p> <p>県内外の利用者に定着している、これまでの「希望が丘文 化公園」のイメージや、公園に求められる機能(自然の保全と 調和のとれた自然公園)に十分配慮し整備する必要がある</p>	<p>山林における大規模造成工事、雨水排水対策の実施にあ たり、適正工法の慎重な検討と、適正工期の確保が必要</p> <p>事業区域内における用地買収(うち民有地については用地 交渉)が必要</p>	<p>【希望が丘】 高低差への配慮が必要。また現在の競技場 と同じ高さで整備すると、中央道との高低差 があり、現在の希望が丘の風景の中にかなり 圧迫感のある建物ができることになる</p> <p>【びわこ文化公園都市】 造成工事のスケジュールは地盤が安定するま での時間も想定する必要があるのではないが</p>	
式典運営にあたっての課題	<p>実施本部駐車場の面積不足 民有地買収等による敷地面積の拡大によりスペース確保 (彦根市の協力)</p> <p>荒天時の開会式場 県文化産業交流会館(米原市)、長浜ドーム(長浜市)ま たは彦根市内の体育館等を想定</p>	<p>十分なスペースがあり特に問題なし</p> <p>荒天時の開会式場 野洲市立体育館等、近隣の体育館等を想定</p>	<p>新規整備であり特に問題なし</p> <p>荒天時の開会式場 びわ湖ホール(大津市)または近隣の体育館等を想定</p>		
その他留意事項	<p>世界遺産登録に向けた取り組みへの影響 現在彦根城のバッファゾーンに位置付けられているが、今後 登録推進の過程でバッファゾンの見直しについても検討</p> <p>夜間照明施設利用 地元自治会に対する丁寧な説明と配慮が必要</p>	<p>国体開催時や災害等緊急時における、公園東口からのアク セス改善のため、大型車両の通行を想定した公園内通路の橋 りょう整備、道路整備のためのコストを算定</p> <p>国体開催期間中の周辺道路の混雑への懸念があるため、 会場へのアクセス改善のためのコスト(スマートインター整備)を 算定</p>	<p>公園へのアクセス道路としての都市計画道路の早期整備が 望ましい(大津市)</p>		

彦根総合運動場内プールについては、現状での
国体競技開催は困難であることから、主会場がい
ずれの候補地になっても対応を検討する必要があ
るため、コスト算定からは除外する。

主会場選定にあたっての比較評価調書(素案)

【資料5】

項目	視点	彦根総合運動場	希望が丘文化公園	びわこ文化公園都市	(これまでの専門委員会での意見等)
2. 事業費試算					
整備に要する経費試算	イニシャルコスト	13,490百万円	12,890百万円	21,700百万円	
(場合によって必要となる経費の試算)	特殊工事(地盤改良・橋りょう工)、代替施設整備費等	4,690百万円 地盤対策費 1,370百万円 用地補償費 970百万円 代替施設整備費 1,740百万円 間接費 610百万円	4,880百万円 地盤対策費 450百万円 橋りょう整備費 1,570百万円 代替施設整備費 580百万円 関連公共施設整備費 1,640百万円 間接費 640百万円	640百万円 地盤対策費 340百万円 上下水道施設 220百万円 間接費 80百万円 都市計画道路(大津市)を別途想定(L=1.2km 用地買収・施工費2,900百万円)	
事業費総計		18,180百万円	17,770百万円	22,340百万円	
維持管理経費の試算	(増加するランニングコストの見込み)	166百万円(年間 43百万円の増加)	528百万円(年間 43百万円の増加)	143百万円(年間 143百万円の増加)	
想定される収入の内訳		ネーミングライツ料金収入10百万円、利用料金収入32百万円、指定管理料124百万円	ネーミングライツ料金収入10百万円、利用料金収入115百万円、指定管理料403百万円	ネーミングライツ料金収入10百万円、利用料金収入14百万円、指定管理料119百万円	
3. 整備スケジュール					
スケジュール	整備に要するスケジュール(各種許認可含む)	民有地買収による敷地拡充が条件となるため、これに要する期間を見込む必要がある	特になし	スケジュールに余裕はない	
不確定要素の有無	スムーズな整備の進捗に影響を及ぼす可能性のある事項	現在の用途地域の変更、高さ規制の特例を認めることが、当該地周辺の景観や環境に及ぼす影響や、世界遺産登録への影響を慎重に検討(彦根市) 民有地買収に際し、事業説明・交渉を行う必要がある 市街地での工事であり、周辺家屋への配慮が必要となる		保安林解除にあたり、当該地域全体における森林の保全方針を明確にする必要がある 環境アセスメントの過程で、追加調査や追加の対策検討が生じないように進める必要がある 民有地買収に際し、事業説明・交渉を行う必要がある 埋蔵文化財の予備調査の結果、保安林区域内で本調査を行う必要が生じた場合、保安林解除後の調査となり、工程に影響が生じる可能性がある 2月～3月実施予定の試掘結果により調査のめどをつける予定	【彦根総合運動場】 彦根市の現行の風致や景観の規制を変えることは、世界遺産登録を目指すうえでおそらく問題になるため慎重に検討されたほうがよい 【びわこ文化公園】 環境アセスメントや保安林解除、文化財調査など一般的に順調にいくとは考えがたい
4. 大会運営に必要な環境や体制					
競技役員等の確保・地域住民の参画	陸上競技会開催にあたり想定される競技役員等確保の見通し	彦根市による協力が得られる見込み(参考:彦根市職員数 1,386人) 彦根市陸上競技協会の開催協力が期待できる	野洲市、湖南市、竜王町による協力が得られる見込み(参考:野洲市職員数420人、湖南市職員数464人、竜王町職員数130人 計1,014人) 2市1町での競技会運営となった場合の調整が必要となる 陸上競技会の運営主体となった場合、他の競技を受け入れるには人員の確保が課題(野洲市) 他に担当する競技種目の運営負担を勘案する必要がある(湖南市)	大津市による協力が得られる見込み(参考:大津市職員数 3,005人) 大津市陸上競技協会の開催協力が期待できる	参考 東京国体(H25) 主会場所在地(調布市)における陸上競技会への市職員動員実績 1日あたり 83人
付帯施設の整備	臨時駐車場や練習会場の確保見通し	彦根市による協力が得られる見込み 臨時駐車場の確保見通し(検証中) 投てき練習場 運動場内(野球場)または金亀公園で想定	地元2市1町による協力が得られる見込み 臨時駐車場の確保見通し(検証中) 投てき練習場 公園内で想定	大津市、草津市による協力が得られる見込み 臨時駐車場の確保見通し(検証中) 投てき練習場 場内多目的グラウンドないし近隣の学校等(東大津高校他)で想定	
5. 宿泊施設					
宿泊施設の確保可能性	当該市町・隣接市町における施設(収容可能人数)との比較	いずれの候補地も、所在市町および近隣市町において、現状で陸上競技会の開催で想定される宿泊者数(2,700人)を越える宿泊定員を備えている。(H20-H24開催時の、陸上競技選手・監督+各都道府県競技役員、本部役員等宿泊者数合計の平均)			
6. その他					

主会場選定にあたっての比較評価調書(素案)

【資料5】

項目	視点	彦根総合運動場	希望が丘文化公園	びわこ文化公園都市	(これまでの専門委員会での意見等)
7. 整備に伴う影響					
現施設(エリア)のコンセプト		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和14年開設 ・県民の心身の健全な発達とスポーツの普及振興を図る目的で設置 ・県内唯一の総合運動施設、県民のスポーツの拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和47年開所 ・恵まれた自然環境を生かした、青少年の健全育成のための緑地公園 ・「文化公園は、木々の緑や太陽の光、清らかな空気が訪れる人たちに安らぎを与え、自然を忘れがちな私たちの心のふるさととして、また、明日への生命を甦らせてくれる場として、将来にわたり守り育てていかなばならない滋賀の財産です。」(希望が丘文化公園のビジョン(理念)より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和54年、当該エリアを「びわこ文化公園都市構想区域」に位置づけ ・現在、文化・芸術・医療・福祉・教育・研究・レクリエーション等に関する施設が集積するとともに、緑豊かな住宅地も形成 ・「びわこ文化公園都市将来ビジョン」(H24.8)で示された当該エリアの5つの将来像 <ul style="list-style-type: none"> 県内外の人々が「交流」する場 文化・芸術を「創造」する場 未来成長へ「挑戦」する場 歴史と暮らしを「紡ぐ」場 いのちと健康を「支える」場 	
整備後の施設の姿と、影響の考察		<ul style="list-style-type: none"> ・第1種陸上競技場(球技場兼用) ・サブトラック(球技場兼用) ・野球場 ・駐車場(約900台) テニスコートや多目的グラウンドは、金亀公園(彦根市)との機能補完や、隣接地での追加用地確保による一体化も検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1種陸上競技場(球技場兼用) ・サブトラック(球技場兼用) ・野球場 ・ソフトボール場 ・スポーツ会館(小体育館) ・駐車場(約1,750台) ・テニスコート17面(代替機能の場内確保後) (別途、野外活動ゾーンにキャンプ場、文化ゾーン(東口側)に宿泊研修施設(青年の城:宿泊定員360名、大ホール、研修室等)あり) 総じて施設の老朽化が進んでおり、主会場整備に併せ既存施設のあり方を見直し、必要に応じ更新を行うことも検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1種陸上競技場(球技場兼用) ・サブトラック(球技場兼用) ・多目的グラウンド ・駐車場(約1,000台) 	
これまでの利用状況と、整備による影響		施設年間利用者数 232,370人(過去5年平均) プール(同 31,928人)、テニスコート(同 37,986人)への影響が生じる	スポーツゾーン 年間利用者数 242,303人(過去5年平均) 公園全体の年間利用者数 827,743人(同) テニスコート代替施設を場内に設けることで、特に影響はないと考えられる		
これまでのスポーツ大会・大規模イベント開催実績と、整備に伴う影響		全国高等学校野球選手権滋賀県大会(県予選) 関西学生リーグ(アメリカンフットボール)(陸上競技場) 西日本大学野球選手権大会、近畿地区都市軟式野球近畿大会(野球場) 全国高校女子選抜研修大会(テニスコート) その他 近畿、県域規模の大会開催実績あり テニスコートの代替機能確保が課題	全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク滋賀2008」 全国中学校駅伝大会(H9-11) 全国なでしこサッカー大会 ドリームズ・カム・トゥルー野外コンサート(H15) 「芝生ランド」を残す計画であれば機能保全可能		
現在の防災機能と、整備に伴う影響		【現状の防災機能】 中央防災会議「東南海・南海地震応急対策活動要領」に基づく(具体的な活動内容に係る計画)における位置付け 広域物資拠点(21万食:受援) 県地域防災計画における位置付け 広域陸上輸送拠点 滋賀県緊急消防援助隊受援計画 野営可能場所 彦根市地域防災計画における位置付け 一時避難場所 防災ヘリコプター指定離着陸場 その他 大人数を収容できる広域避難場所としての機能はない 【整備により期待できる効果】 国体主会場として、交通(道路)アクセスや通信を含むライフライン等が整備されることにより、上記防災拠点としての機能増強が期待できる	【現状の防災機能】 中央防災会議「東南海・南海地震応急対策活動要領」に基づく(具体的な活動内容に係る計画)における位置付け 広域物資拠点(40万食:受援) 活動拠点候補地(警察・消防・自衛隊:受援) 県地域防災計画における位置付け 広域陸上輸送拠点 滋賀県緊急消防援助隊受援計画 航空部隊進出拠点 野営可能場所 滋賀県ヘリコプター受援計画 航空消防隊進出拠点(ヘリベース) 野洲市地域防災計画における位置付け 広域陸上輸送拠点 その他 青年の城等により400名程度の避難者の宿泊が可能 【整備により期待できる効果】 国体主会場として、交通(道路)アクセスや通信を含むライフライン等が整備されることにより、上記防災拠点としての機能増強が期待できる	【現状の防災機能】 (ただし、候補地に隣接する既存施設としての位置づけ) 県地域防災計画における位置付け 広域陸上輸送拠点 大津市地域防災計画 救援物資等の備蓄・集積拠点 広域避難地 その他 現状では、大人数を収容できる広域避難場所としての機能はない 【整備により期待できる効果】 国体主会場として、交通(道路)アクセスや通信を含むライフライン等が整備されることにより、上記防災拠点としての機能増強が期待できる	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路からのアクセスと、フレキシブルに使えるスペースが大事 ・県の防災備蓄物資については、現在民間倉庫を借り上げ、県内に分散保管している ・上記以外の災害時緊急支援物資の輸送調整は、設備とノウハウを有する滋賀県倉庫協会との協定により各会員事業者倉庫を活用した協力応援体制を整備中 ・主会場と併せた備蓄倉庫としての整備についてはその必要性・実効性を含め、今後の検討が必要
その他					

主会場選定にあたっての比較評価調書(素案)

【資料5】

項目	視点	彦根総合運動場	希望が丘文化公園	びわこ文化公園都市	(これまでの専門委員会での意見等)
8. 多目的性(将来の利活用)					
交通アクセス	公共交通機関	JR彦根駅より徒歩20分 JR彦根駅よりバス5分(平日6本/日、土日祝4本/日) 新幹線米原駅から彦根駅 電車5分	JR野洲駅よりバス10分(平日13本/日、土日祝12本/日) 新幹線 京都駅から野洲駅 電車28分(新快速) 同 米原駅から野洲駅 電車24分(新快速)	JR瀬田駅より候補地付近(滋賀医大病院)までバス15分(平日80本/日、土日祝46本/日) JR南草津駅より候補地付近(滋賀医大病院)までバス15分(平日6本/日、土日祝運行なし) 途中渋滞頻発箇所あり 新幹線 京都駅から瀬田駅 電車18分(普通) 同 京都駅から南草津駅 電車17分(新快速)	・災害時には高速道路からのアクセスが重要 ・運動施設としては公共交通機関からのアクセスも重要
	自動車交通	名神高速道路彦根ICより2.9km(約7分) 途中渋滞頻発箇所があるが、県道原松原線の供用(H31)が見込まれる。	名神高速道路栗東ICより約8.8km(約16分) 途中に渋滞頻発箇所あり(バイパス整備計画あり~供用時期未定) 名神高速道路竜王ICより約11.9km(約28分) IC出口付近右折時の混雑について懸念あり(竜王町) 公園東口について、公園内通路の改良(橋りょう整備等)により、緊急時やイベント開催時のアクセス改善可能 名神高速道路竜王ICより約1.8km(約3分)+公園内通路約4km(場内時速30kmとして約8分) 計約11分	新名神高速道路草津田上ICより約1.4km(約3分) 名神高速道路瀬田東ICより約3.2km(約5分)~下り線 同瀬田西ICより約5.4km(約9分)~上り線	
その他施設の配置(導入)の可能性		民有地買収による敷地拡大が一定見込める。 金亀公園(彦根市)との一体化による機能補完の可能性あり(彦根市提案)	敷地に余裕があり、機能付加の可能性を有する(但し保安林解除等の手続きが必要となる場合がある)	敷地拡張は困難 運動施設面積率/許容建築面積率に余裕があり、現計画の「多目的グラウンド/オープンスペース」については、他の用途を持つ施設(プール・体育館・テニスコート等)の設置は可能	
国体開催後の有効活用の可能性	市民の利用				・仮にリーグ開催を念頭に置く場合、最初から2万人規模の施設を造らないと、後から対応は難しいのではないか ・競技場があるだけの施設ではなく、市民がスポーツ以外にも楽しめる施設、生活の中に密着した施設を目指したオプションの価値をどれだけ付加できるかといった側面からの検討も必要
	防災機能				
	経済・観光				
	学校・大学との連携				
	その他				